

【グローバル教育取り組み部門：応募様式】

※作品は応募様式3頁以内とします。応募様式以外に参考資料を添付することが可能です。(A4、様式任意)。
 応募様式、参考資料あわせて6頁以内とします。

タイトル	「世界」はあなたの横にある ～中学3年間を通した世界を学ぶ学習～
実践者／団体名	井上陽平
実施日・期間	2011年4月～2014年3月(中学1年～3年)
主な実施場所	甲賀市立甲南中学校
参加者及び人数	1学年(2014年3月卒業生：6クラス・201名)
目標・ねらい	・生徒が「自分も世界につながっている」「自分が世界をよくすることができる」と感じ、よりよい世界を創り上げるために行動する意欲を持たせる
具体的な取り組み内容及び工夫・配慮した点等	・社会科を中心に、総合、道徳などで世界を題材したグローバル教育的な価値(つながり、支援、平和、異文化理解等)を伝え、理解する授業を行う ・①世界はカッコイイと感じさせる②世界には深刻な問題があることを伝える③生徒の活動を入れる④世界はよくなっているし、自分にもできることがあると感じさせて終わる、の4点を授業に含ませることを心がける
教材・資料	・取り組んだ内容・ねらい・教材・資料を別紙「学習活動一覧」にまとめた。留意点は以下の通り ・2011年度入学生が在学していた3年間を通して行ったさまざまな学習をまとめている。社会科や道徳、学活、総合などを活用した ・「全体」(世界を学ぶ上で知っておきたい内容)と「地域別」(具体的な国や地域を取り上げる内容)に分かれている ・学習はワークシートを配布してすすめている。例として「国際支援を考えよう」「世界はすでにつながっている(ムシキングと自殺)」「平和ってどんなもの?」と「タンザニアと日本の関係(ナリエンデーレ小学校の問題)」を「別紙資料プリント(両面印刷)」に例示する ・学習ではパワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを使い、写真を活用した。「別紙写真資料」には「ナリエンデーレ小学校」と「リベルタージ地区のラジオ体操」を紹介している ・資料や招へいた人物等は「学習活動一覧」に示している
成果	・国際的なことに興味を持ち、自主的に活動をはじめようとする生徒が多く現れた。将来は世界を舞台に活躍したいと進路希望に書く生徒も多かった。 (1) 授業を受けてネパールの中古文具集めに取り組むことを公約とした生徒が副会長に当選。以降生徒会活動としてネパールの中古文具集めに取り組む (別紙資料写真1) (2) 夏休みでの国際協力を考える様々なセミナーに生徒が4人参加。そのうち2人が中心となって、本校の行事である平和行進に「STAND UP TAKE ACTION」への活動への参加を訴えた。送った写真は審査員特別賞受賞 (別紙絵はがき) (3) 有志の生徒が地元の国際交流フェスタに参加。各自が調べた世界の課題や文化をまとめた作品を掲示、地域の外国の方々と交流した (別紙資料写真2)
発展 (この取り組みの生かし方)	・これらの活動をより体系化し、誰でも出来るような体制づくりを目指したい。 → 校内共有のLAN内に「国際理解教育」のフォルダを作成 ・生徒が卒業後も活動できる組織の必要性を感じている → 地域を拠点とした国際理解サークルの立ち上げを計画

別紙 学習活動一覧
全体

◎直接来ていただいた方々 ○筆者が出会った経験を授業に生かした方々 ◇活用資料(写真は除く・・・どの授業でも使っているため)

	授業	習得・実感させたい知識・価値	おおまかな内容	活用した資料・招聘した人物など
国際援助	世界は助け合っている (2年: 社会科・地理的分野) (別紙資料プリント1)	・国際的な援助は「豊かな国が貧しい国に行く」ものではなく、「その時々困っている国を相互に助け合う」ものであること ・東日本大震災時に支援してくれた国や地域への感謝と、それが今までの日本の支援のたまものであること	①日本では欠席理由程度のかげ、下痢、はしかなどが、世界では死亡原因になることを知り、その背景にある貧困や医療格差、教育などの問題に気づく ②ODAやNGOなどを学び、日本が世界有数の支援国であることを知る ③一部にある「国内の問題がいっぱいあるのに海外にばかり支援する」という批判を紹介し、それに対する意見を交流する ④東日本大震災の際に支援を申し出た国や団体を知り、また潘基文国連総長の発言から、日本もまた支援される国であることを学ぶ ⑤有志を集め、支援を申し出た国を白地図に塗っていく活動を行い、掲示する ※生徒会の情報委員会が模造紙を使って掲示物にして、学校に1ヶ月間掲示する活動を行った	◇乳幼児の死亡原因のグラフ ◇MDGs(国連ミレニアム開発目標)とその進捗状況を示した表 ◇東日本大震災時に援助の申し出があった国や団体一覧(外務省HP) ◇潘基文国連総長の震災時の発言 「日本は世界中の困っている人を援助してきた最も寛大で強力な援助国の一つだ。今回は国連が日本国民を支援し、日本国民の力になりたい」
宗教理解	死んだらどうなる? (2年: 社会科・地理的分野)	・世界にあるさまざまな宗教の特徴 ・すべての宗教に対する尊重の姿勢 ・宗教は多くの場合は共存しており、宗教戦争の多くは政治的対立であること	①「死んだらどうなるか」について、自由に意見を交流する ②死後の世界の説明をしながら主な宗教の特徴をまとめる→神の審判(キリスト/イスラム)、輪廻転生(ヒンドゥー)、無記(仏教)など ③宗教上の禁忌を整理し、相手の宗教を尊重することの必要を学ぶ ④シンガポールの地図を示し、なぜシンガポールは宗教戦争が起こらないのかを考える	◇キブラ(メッカの方向)のシール ◇シンガポールの地図 シンガポールには「チャイナタウン」「イスラム街」「リトルインディア」などが共存しているが、暴動や対立はない
南北問題	ムシキングと農民の自殺との関連性 (3年: 社会科・公民的分野) (別紙資料プリント2)	・グローバル経済の拡大に伴ってひとつの行動が世界に影響を与えることがあること ・先進国と開発途上国の間にある情報面と経済面の格差 ・先進国と開発途上国の格差を解消するための方法を考える姿勢	①小学生の頃のムシキングの思い出話を交流し、このブームの一方でブラジルの農民が自殺した事件があることを知り、その関連を考える ②関連カードを並び替え、世界がつながっていることを実感する ③その関連の表から農民の自殺の中でもっとも大きな原因だと思う場面を決め、なぜそう思ったかについて意見を交流する ④最大多数になる「ブームに全財産をかける農民」の行動に注目し、なぜそのような行動を取るのかを考える中で情報の格差や貧困に気づく ⑤その問題を解決するためにはどのような方法をとればいいのかについて意見を交流する	◇大槻一彦 先生(京都堀川高校) JICAの研修会で紹介いただいた内容を基に教材を作成した。 ◇ムシキングカード ◇自作関連カード(ムシキングカード流行→ブラジルでの虫の特需→農民が農地を養殖場へ変える→流行の終了→養殖場の借金増大→支払えずに自殺)
地域の国際化	甲賀市・実は国際都市 (2年: 総合)	・自分の住む地域にも多くの外国人がいることを知り、交流を持とうとする意欲 ・日本への極度の卑下や優越意識をなくし、それぞれの国がそれぞれいいところを持つという考え方	①「この人は何人?ゲーム」(中国系アメリカ人、アフリカ系日本人などの顔写真を見せ、国籍を聞く)を行い、国や国民に対する固定イメージをなくす ②地域にある世界に関する施設(スーパーのブラジル人向けコーナー、市役所や病院の多国籍向け説明、国際交流フェスタの様子など)を紹介し、甲賀市にも多く外国人が暮らしている状況を数字や写真などから学習する ③トマスさんに「日本にきて驚いたこと」「本国より日本の方が優れていると思ったこと」「日本より本国の方が優れていると思ったこと」などを聞き、関連する写真を見せながら話を聞く	◇トマス・パーさん(甲賀市国際交流員) アメリカ出身。中学校のALTで来日以降滋賀県に15年滞在し、小中の英語教育プログラム作成や国際交流イベントの運営などに関わる。今回パネルディスカッション形式で在住外国人の意見を紹介してもらった
平和	平和は「ある」ものでも「守る」ものでもなく、「作り続ける」もの ○これは平和? (1年・学活) (別紙資料プリント3) ○平和達成何%? (2年・学活) ○平和を作ろう (3年・学活)	・平和は戦争のない状態ではなく、自分が怯えず、利用されず、無視されず、力が発揮できる状態であること ・平和観はひとりひとり違うことに気づき、平和についてもっと積極的に考え、話し合う姿勢(1年) ・「対立」「人権無視」などの平和を脅かす要素の発見(2年) ・「公平」「相互尊重」「ルール作成」などの平和構築のための思考(3年)	1年①「サッカーでの乱闘」「パンダにされた犬(中国)」「アンパンチ」などの写真を見せながら、「これは平和か? 平和じゃないか?」を考える ②平和の逆は「戦争」ではなく「暴力」であり、「暴力」は「見えるもの」と「見えないもの」、さらに「見えない暴力」は「格差」と「無視」に分かれることを学ぶ 2年①平和の色・形・手触りなどを考え、「平和」を別の言葉で言い換えると何になるかについて意見を交流する ②今の日本や世界の平和達成度を%にして、足りない理由について意見を交流する 3年①「平和に争う」条件をオリンピックやワールドカップを例に考える ②「平和に決める」「平和に分ける」「平和につきあう」ためにはどんな条件があればいいかを班で考え、まとめて発表しあう	◇大槻一彦先生(京都堀川高校) 1年、2年の内容は大槻先生の実践を基に作ったもの。3年の内容は自作 ◇拡大写真「サッカーでの乱闘」「戦闘機がショーで描いたハート型の飛行機雲」「パンダのように毛を染められた犬(中国で流行)」「アンパンチ(アンパンマンから)」 ※本授業は学校共通の「平和学習」として7月一斉に行い、授業の感想を生徒会が「平和宣言」としてまとめ発表する
		・世界には字が書けない人が多く、それが貧困に大きく関わっている	①利き手の逆の手で名前を書かせ、「3-4歳の頃は利き手でもそれくらいしか書けなかったはず。字が書けるようになったのはその頃から今までに何があ	◇色画用紙の半端物 掲示物の作成時に出る色画用紙の半端を

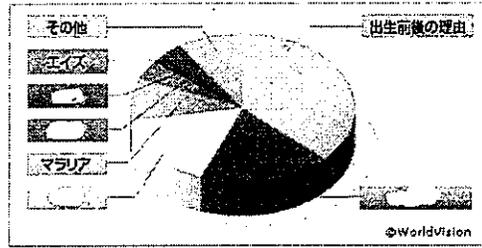
職 字	あなたはなぜ字が書ける (2年: 道徳) (別紙資料写真3)	こと ・マイナスの事例を見たとき、毛嫌 いするのではなく、「なぜそうなる のか?」を考える習慣 ・支援によって多くの人が字が書け るようになること	ったのか」と発問。生徒は思いついた理由を紙に書いて黒板に貼りに来る ②その理由を「自分でできること」と「自分ではどうしようもないこと」にわ けて整理し、後者が圧倒的に多いことを明らかにする ③世界の識字の状況を示してその理由は後者が関わっていることを説明し、後 者の中で「誰かが関わることで解決するもの」を探す ④国連識字の十年や世界(日本も含む)各地の識字教室の様子を見せる	集めておき、そこに字が書ける理由を好 きに書き込む用紙とする
--------	--	--	---	-----------------------------------

地域別

	授業	習得・実感させたい知識・価値	おおまかな内容	活用した資料・招聘した人物など
タン ザ ニ ア	貧しくて、実は貧しくな くって、やっぱり貧しい かもしれないアフリカ (1年: 道徳・学活) (別紙資料写真4・③のみ) (別紙資料プリント4)	・アフリカ経済的視点とは別の豊 かさを持っていること ・さまざまなものが不足しているこ とは、同時にどのような方向から も支援が可能であると捉える思考 ・自分の得意な分野や興味ある方法 で世界に貢献できることに気づ き、貢献への意欲を高めること	① LDC (後期開発途上国) や写真「ハグワシと少女」などを見た後、明る い笑顔のあふれるビデオを見せ、「貧しいって何だろう?」と考える ②オマリさんを招き、タンザニアの文化や生活についての話を聞き、カンガに 書かれている言葉の中で「私のお気に入り」を選び、紹介しあう ③ナリエンデー小学校の抱える問題の解決すべき順位をダイヤモンドラン キング形式で考え、意見を交流する。さらに自分が関われると思う問題を選 び、自分がどのように関わっていくのかを考える ④アフリカの経済の伸びや TICAD 開催をはじめとした日本の協力などを学び、 アフリカに対する未来への希望を知る	◎オマリ・ムワンドゥアラさん (画家) 県内在住。ティンガティンガアートの画家 をしながら、絵やダンス、ジャンベなどの タンザニアの文化を紹介する活動を県内の 学校を中心に続けている。 ◇ビデオ ◇カンガ名言集 ◇タンザニアミニボックス (手洗い用の水差 しと洗面器、掃除用ほうき、木製歯ブラシ)
中 国	本当に怒ってるの? ~中国人留学生の方々と 話そう~ (2年: 道徳) (別紙資料写真5)	・尖閣国有化を機に悪化していた日 中関係の影響を受けて広がっていた 中国への嫌悪感を和らげること ・個人の間人同士のつきあいが平和 の基本になること ・直接出会うことが対立や誤解を解 くことになること	①事前に中国の方への質問を集めておく ②留学生の方から出身の町の特徴や生活の様子を話してもらう ③生徒の質問から文化、生活についての話 (回鍋肉や餃子は日本のものとずい ぶん違う、中国語はひとつではない、旧正月にお祝いをするなど) をする ④湖南省で襲撃された平和堂 (滋賀県創業のスーパーマーケット) の写真を見 せ、「悲しい」「みんながこう思っていない」ことを訴えてもらう ⑤中国でよく食べられる揚げせんべいを食べながら交流する	◎滋賀大学の中国人留学生のみなさん 滋賀大学には多くの中国人の留学生が来て いる。その中で教育学部に在籍している方 々をお招きした。事前の打ち合わせで中国 の反日暴動についての意見を聞き、そのま ま話してもらった
ネ パ ー ル	ネパールの子どもたちに 文房具を贈ろう (2年: 社会科・地理的 分野)	・アジアが経済的に大きく伸びる一 方で、以前として残る貧困がある こと ・中古文具を贈る活動を実際に体験 し、自分も世界に貢献できるとい う実感を持つこと	①人口、GDP などからアジアが経済的に大きく発展していることを学び、そ の一方で貧困ゆえの児童労働や人身売買などの事実があることを学習する ②浅原さんを招き、ネパールの子どもたちを取り巻く状況 (カースト制、新品 文房具を贈っても周囲の大人が金に換金してしまう) を聞く ③生徒が持ち寄った文具に浅原さんに教わったネパール語を書き込んで集め、 浅原さんに預ける ④浅原さんがネパールの子どもたちに届けてくれた映像を見せる	◎浅原明男さん (山岳ガイド・サバナ) 大津市在住。ネパール、チベットの登山ガ イドしながら行程の村の子どもたちに中古 文房具を支援する活動を行っている。授業 で使う写真も提供していただいた
ポ ー ランド	アウシュビッツ訪問報告 (3年: 社会科・歴史的 分野) 1000人の命のビザ (3年: 道徳)	・相手への無関心や無知が憎悪を生 み、戦争・対立を激化させること ・その流れに流されずに良心を貫 いた人がいたこと ・同じ過ちを繰り返さないために過 去から学ぶことが必要なこと	①写真やビデオからアウシュビッツで行われたホロコーストの内容を説明し、 「なぜここまでひどいことになってしまったのか」を考えることを説明する ②実際の虐殺や拷問をドイツ兵が関わらないようにしていたことから「見えな い (無関心・無知)」ことが虐殺につながることを学ぶ ③ホロコーストを指示していたアドルフ・アイヒマンの生涯と「アイヒマンの 実験」から多くの人が同様の行動を取ることを学習する ④杉原千蔵を例にそのような時代にあっても良心を失わずに行動した人がいた ことを知り、自分の考えをしっかりと持つことを学ぶ	◇映画「夜と霧」抜粋 ○中谷剛さん (アウシュビッツ公式ガイド) 決してヒトラーや当時のドイツの批判を行 わず、「なぜこんなことが起こったのか?」 を訪問者に問うスタイルでガイドを行う。 その問いに対して筆者が思ったことを授業 にした ◇道徳教材「1000人の命のビザ」
ブラ ジ ル	ブラジル訪問報告 ①移民編 (別紙資料写真6) ②環境編 (3年: 学活・道徳)	・世界で活躍した日本人を学び、日 本人であることの誇りを持つこと ・自分の生き方の選択肢を日本から 世界に拡げること ・森の回廊作りを例にした持続可能 な開発のあり方 ・環境保全に関わる方法は多くあ り、自然の中でなくてもできるこ とがあること	移民編①移民の歴史を学び、移民がブラジルに与えた影響 (農業、教育など) とブラジルが移民に与えた影響 (文化、精神的豊かさなど) を学ぶ ②自分の夢を「日本でしか実現できない夢」と「日本以外でしか実現で きない夢」に分け、意見を交流する 環境編①都市の風景とセラードの大自然を見せ、ブラジルには多様な環境があ ることを知り、そのふたつを両立するための努力を紹介する ②森の回廊を作るためには「地主会議」の開催や「広報」活動など、自 然以外の活動も必要とされることを学び、自分が環境保全のためにで きることを考える	○サンパウロ滋賀県人会(会長: 山田康夫氏) サンパウロ滞在時にお世話になり、日系新 聞社、日本語センターなどブラジルの日系 文化の現場を紹介してもらう ○Jaguar conservation fund 筆者が環境 NGO/ Earthwatch の研修に 参加。エマス国立公園を中心に生態系を調 査すると同時にアラグアイア川周辺の森の 回廊づくりのために広報や会議運営を行う

国際支援を考えよう

1. 乳幼児が死ぬ理由



- 1位：出生前後の理由
→ 早産の感染症・合併症
- 2位：(かせ → 肺炎)
- 3位：(下痢)
- 5位：(はしか)
- 6位：(けが)

《 先進国では原因にならない 》

↓
だったら何とかできるんちゃう？

2. さまざまな支援

(1) 《 世界 》・・・(国際連合)を中心に支援
 目標=(MDGs(ミレニアム開発目標))

「貧困の減少」「教育の普及」「乳幼児の死亡率低下」「環境悪化の停止」
 「男女の平等」などを発展させるとりくみ

(活動)別紙「MDGsの進捗度」を見て、あなたが一番気になったところを挙げよう

地域 () 目標 ()
理由

(2) 《 国 》・・・(ODA (政府開発援助))を出す

・日本=約 (5727) 億円・・・世界第 (5) 位
 → (国際協力機構 (JICA)) が中心に行う・青年海外協力隊など

(3) 《 会社・ふつうの人 》・・・(NGO (非政府組織))を作る

・(環境) (教育) (技術) (医療) (紛争) など

2. この意見にあなたなら何と答える？



今、日本は借金だらけなんやろ？しかも日本の中でも震災や少子高齢化とか、いっぱい問題あるやん。外国に金出すくらいなら国内に金出した方がええんちゃうの？

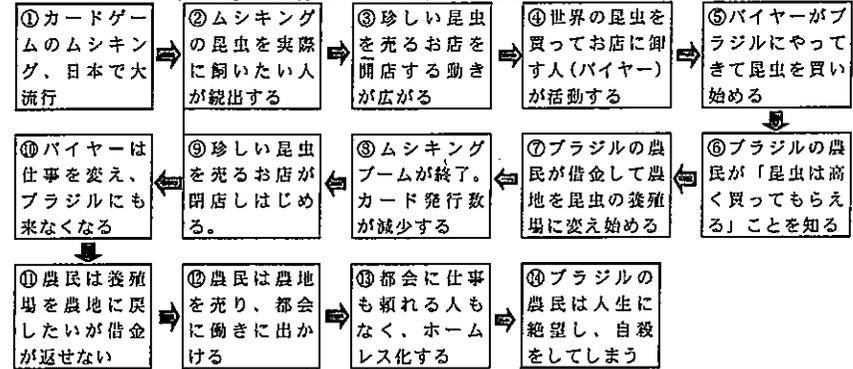
海外支援の原則

(相互支援)・・・先進国でも発展途上国でも助け合う
 ・2011年に世界からもっとも経済支援を受けた国のひとつは (日本)
 それまでは支援する側だったが、(東日本大震災)で支援される側へ

「日本は世界中の困っている人を援助してきた最も寛大で強力な援助国の一つだ。今回は国連が日本国民を支援し、日本国民の方になりたい。できることは何でも、全てやるつもりだ」
 (パン・ギムン国連事務総長の東日本大震災直後の発言)

世界はすでにつながっている

☆「ムシキング」の流行とブラジル農民の自殺の関連を考えてみよう



(グローバル社会) = 人、モノ、金が国境を越えて行き交う時代
 それは 《 私の行動が世界に影響を与える 》時代
 つまり 《 世界の変化が私に影響を与える 》時代] 世界はひとつになるのかも

Q:こんな時代に、あなたは何を大切に生きていきますか？

(考えよう)世界はどこで間違えたのだろう？・・・()に上の表の番号を書き、理由を書こう

():

☆この意見について考えてみよう

(⑦) ブラジルの農民が欲に目がくらんで農地を全部変えたのが悪い

○なぜ彼はそうしてしまったのだろう？

ブームだと知らなかった？

ブームだと知っていた？

[]

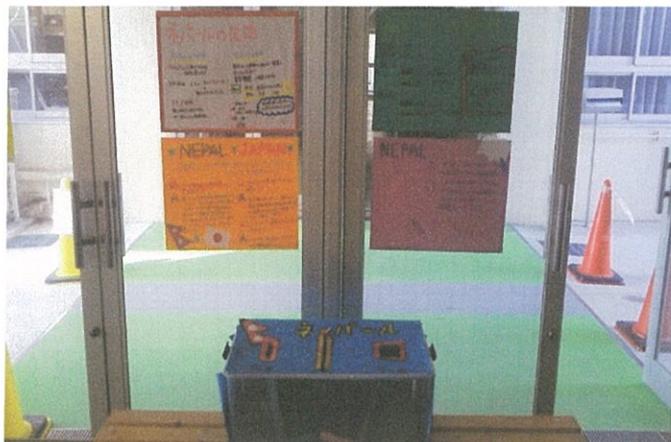
[]

正しい判断をするには 情報や知識がいる

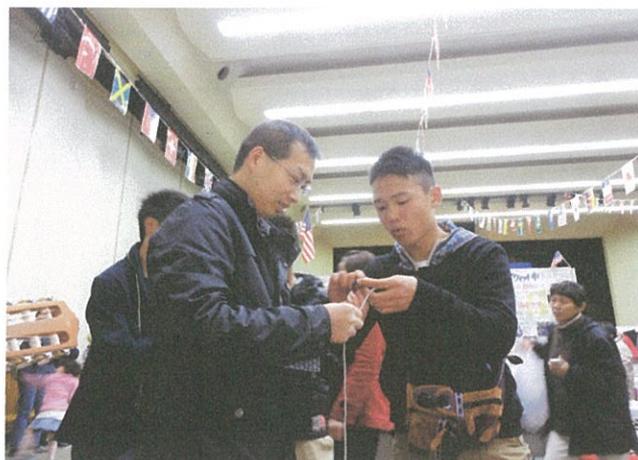
貧困は正しい判断を狂わせる

もう一度学習・・・(ミレニアム開発目標(MDGs)) 国連の取り組み
 ⇒ (健康) (貧困なし) (知識) が世界の「平和」の基礎

別紙写真資料



写真資料1:ネパールに送る文具を集めるコーナー
ネパールに送る中古文房具を集める生徒会の活動は始めた生徒の卒業後も引き継がれ、2年目を迎える。



写真資料2:地域の国際交流フェスタの風景
生徒のブースには生徒作成のレポートに加え、けん玉や剣道道具、ペーゴマなどを置いて交流した。



写真資料3:識字学習後の黒板
「あなたが字を書くことができる」理由を思いつくままに書いて黒板に貼り、その大半自分の努力以外だと気づく。



写真資料4:タンザニアのナリエンデーレ小学校
授業で使用。生徒は最初「元気に学習」に注目するが説明後は「文房具がない」「人数が多い」ことに気づく。



写真資料5:中国人留学生との交流風景
留学生のみなさんが揚げせんべいを配っているところ。反日暴動に対する重い話を終え、最後にほっと一息。



写真資料6:サンパウロの広場で行われるラジオ体操
サンパウロ・リベルタージ駅前広場で毎朝行われている。ブラジル金閣寺と共に日本人移民学習の導入部に使用。